桐生厚生総合病院における
エイズ診療に係る活動

ICTチーム活動

エイズ診療に係る活動状況

HIV感染予防対策教育

HIV感染症の基礎知識
AIDSの基礎知識
正しい感染予防対策
曝露事故発生時の対応
エイズ診療における当院の役割

教育活動の不足

HIV感染予防対策についての
全般的な知識不足

適切な患者ケアの提供を
障害するのではないか

患者受け入れに対応するための研修

エイズ診療協力病院の役割

院内研修（感染対策講演会）開催

平成29年6月22日

講師：前橋赤十字病院 感染症内科　林 俊誠 先生

テーマ：「HIV陽性患者に不慣れな人でも安全・安心に診療できる5つの知識」

上映会：当日参加できなかった職員対象（3日間上映）

参加者：医師13名　看護師340名　コメディカル138名　事務31名

（上映会を含む）

＊講義前後でアンケートを実施（内容は講義前後で同じものを使用）

アンケート内容

1	HIVとは病名である
2	妊娠中の母親がHIVに感染していると子供にも必ず感染する
3	父親がHIVに感染している場合、これからできる子供に直接感染する
4	HIV感染は医療従事者の感染や薬害が大多数である
5	AIDS発症者は障害者手帳が申請できる
6	HIVに感染するとその全例が感染から10年前後で死亡する
7	HIVに感染するとAIDSで死亡することは免れない
8	次のうちHIV感染予防策はどれでしょう（標準のみ、標準＋空気、標準＋飛沫、標準＋接触）
9	HIV感染の治療費の一般的な自己負担額は一か月平均どれくらいでしょう
10	HIV感染症もしくはHIV感染症が強く疑われる患者から針刺し・切創、体液曝露時、どれくらいの時間内での予防内服が必要でしょうか

アンケート結果からの考察

- AIDS発症者がどのような助成制度を受けて治療を継続しているのか現在の体制を学ぶ機会となった（アンケートNo.5）
- 正しい感染予防策については継続した教育が必要である（アンケートNo.8）
- また曝露事故発生時の予防内服については、迅速な対応の必要性や重要性の理解につながった（アンケートNo.10）

HIV治療を継続するための現在の体制や曝露後の予防内服について理解は進んだ、また正しい感染予防策についても継続して教育を行う

アンケート結果②（自由回答）

講演会前	講演会後
▪ 自分に感染しないか不安 ▪ 差別しないでしっかり対応できるか・・・ ▪ 知識が不足しているので、患者さんに不信感を与えてしまう ▪ 感染対策について ▪ 曝露後の精神面のフォロー	▪ HIVについて何も知らなかったと気づかされた ▪ 曝露しても内服する薬があることを知らなかった ▪ 治る病気へと変わったんだなと考え方が変わりました ▪ 普通に接していいので、心配ない ▪ 曝露後の予防内服が当院ではどうなっているのか

自由回答結果からの考察

- HIVについて何も知らなかったことに気づいた、曝露後の予防内服薬の存在を知らなかったなどHIVについての基本的な知識の不足が明確になった
- HIVについての知識不足が適切な患者ケアを行う上での障害になると感じていたスタッフがいるということがわかった
- 日々進歩するHIVの診断・治療に関する情報に加え、変化する患者の転帰などの情報の提供が不足していたことが明らかとなった
- 最新の情報が得られないためHIV・AIDSに対する考え方を変化させることができなかった

適切な患者ケアを行うために必要な基本的な知識の継続的な教育とともに最新の情報を提供する

地域医療機関に対する支援

エイズ診療協力病院の役割

看護協会桐生地区支部第1回交流研修会

平成29年10月23日

講師：大森優子 感染管理認定看護師

（桐生厚生総合病院 感染対策室）

テーマ：「HIV感染症と梅毒感染症について」

参加者：保健師10名　助産師3名　看護師30名

＊講義後アンケートを実施

研修会後の意見

- 正しい知識を身に付けることができた
- 標準予防策をしっかりとしていきたいと思った
- 今後の関わり方など勉強になった
- 気になるけれど詳しく分からないものについて学べて勉強になった
- ぜひ、院内でもこの研修をやってほしい
- 日頃聞くことのできない内容を教えていただきありがとうございました

研修会後の意見からの考察

- 気になるが詳しく分からないもの、日頃聞くことができない内容といった意見があり、話題になる疾患ではあるが、それについて学び、正しい知識や感染予防策、関わり方を身に付ける機会が少ない
- 今回の研修は、正しい知識の習得や関わり方を学ぶひとつの機会になった
- 自施設での研修を希望する意見もあり、知識・技術を共有するため研修会等の検討が必要である

院内での研修会やその他の研修会への参加を呼びかけ、知識・技術の習得の場の提供や最新の情報を提供する

地域医療機関で曝露事故が発生した場合

曝露予防の対応について地域の医療機関から依頼を受けたら・・・？

↓

できるだけ早く予防内服を開始する必要がある

↓

群馬県HIV診療協力病院である当院には
抗HIV薬が準備されており3日分処方できる

↓

受診受け入れおよび薬剤の準備が速やかに開始できるよう
対応手順を見直し、感染対策マニュアルに明記

↓

その後は速やかに治療拠点病院を受診するよう説明する

今後の課題

【職員に対する教育】

◆定期的に研修会を開催し、継続した教育を行いHIV感染予防対策を周知させる、また最新の情報提供を行う

◆曝露事故発生時の適切な行動について繰り返し教育を行い、万が一の場合にも落ち着いて行動できるようにする

◆エイズ診療協力病院として地域での曝露事故発生時の相談・受け入れといった役割を果たすためにその方法を周知する

今後の課題

【地域への教育】

◆院内で開催される研修会やその他の研修会への参加を呼びかけて、知識・技術の習得の場を提供するとともに新しい情報を提供する

◆曝露事故発生時の対応やその後の当院への依頼方法などの手順については保健所などと協力して発信方法の検討を行う